

# 地域課題名「大学生による商店街課題解決」(富山県)

( 魚津市中央通り商店街 )

提案・指導教員 富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科 助教 阿久井康平

(参加学生) 赤塚彩(2年)、秋田麻衣(2年)、石倉志真(2年)、岩田尚也(2年)  
遠藤咲季(2年)、熊谷嘉展(2年)、重山隼人(2年)、十田拓実(2年)  
田島拓弥(2年)、長井大介(2年)、野本紗千(2年)、深谷海那(2年)  
三浦彩萌(2年)、山形菜々子(2年)、吉田結貴(2年)  
唐太玲人(1年)、北村勇人(1年)、木村拓飛(1年)、小池晃輔(1年)  
島倉亙輝(1年)、寺林大輝(1年) 下線:リーダー 計 21名

## 1 課題解決策の要約

本学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科は、平成 30 年度から魚津市中央通り商店街をフィールドに、地域課題及び魅力発掘について継続的にフィールドワーク、ワークショップ、地域交流を図っている。平成 30 年度の活動では、明らかになった課題や魅力資源を踏まえ、「道路空間」「イベント・エリアマネジメント」「商業・建築群空間」といった 3 つのテーマに体系化することができた。

本研究では、「道路空間」「イベント・エリアマネジメント」「商業・建築群空間」といった 3 つのアプローチを手掛かりに、パークレットのデザイン・制作による「道路空間」の再配分、パークレットの制作を踏まえて実空間における試行的展開を通じた「イベント・エリアマネジメント」を検証・考究した。また、「商業・建築群空間」では、地域が手掛ける空き店舗のリノベーションに係る建物用途や計画検討することで、商店街活性化の一助を担うことを狙いとしました。

## 2 調査研究(企画・実施を含む。)の目的

本研究では、平成 30 年度の活動で明らかになった魚津中央通り商店街における課題や魅力資源を踏まえて体系化した「道路空間」「イベント・エリアマネジメント」「商業・建築群空間」といった 3 つのテーマを柱に、「道路空間」ではパークレットのデザイン・制作、「イベント・エリアマネジメント」ではパークレットの試行的展開を通じた人々の利活用や滞留に関する検証、「商業・建築群空間」では地域が手掛ける空き店舗のリノベーションに係る用途や計画検討を行うこととし、日常時やイベント時における商店街活性化について実践を通じて考究することを目的とした。

## 3 調査研究(企画・実施を含む。)の内容

### 3.1 道路空間:パークレットのデザイン・制作

パークレットのデザイン・制作にあたり、材料費との関係性を鑑みながら外形寸法(平面 8m×2m、高さ 1.1m)の条件設定を行った。参加学生を 3 グループに編成し、各グループで利活用を想定した形状検討を 3DCAD や模型制作により実施した。また、各案の概算制作費の算出を行い、プレゼンテーションを踏まえて案を統合した(図 1~2)。

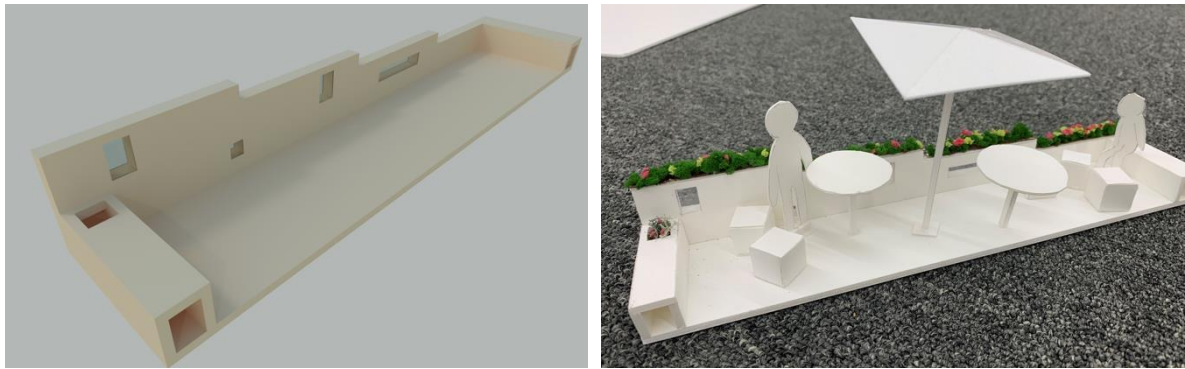


図1 パークレットの形状検討過程

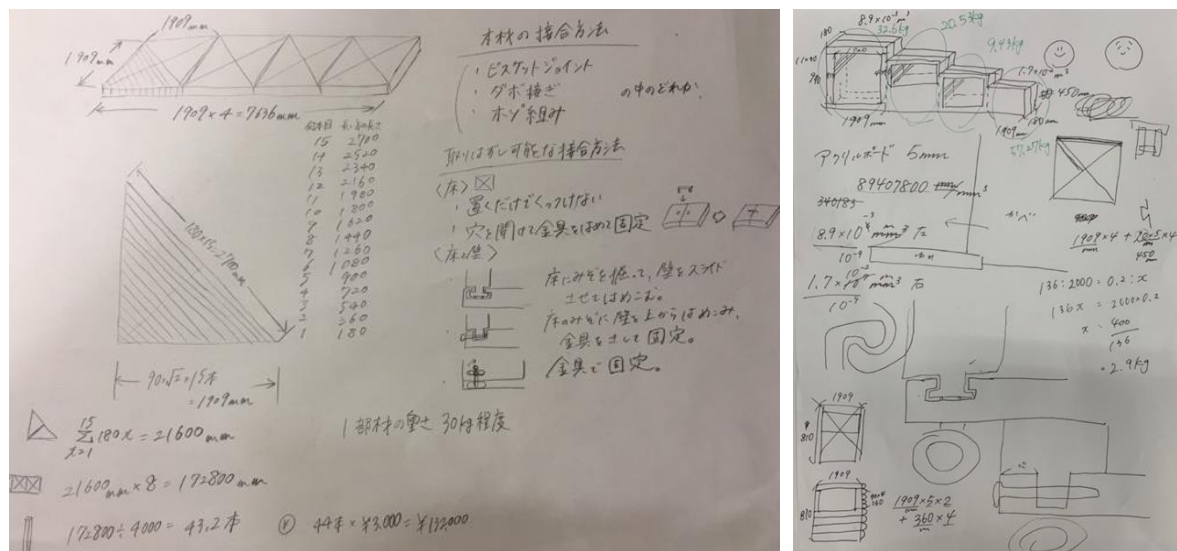


図2 パークレットの数量及び概算制作費の算出過程

### 3.2 イベント・エリアマネジメント: パークレットの試行的展開を通じた検証

パークレットの制作を踏まえて、実空間への展開を試みた。実空間の展開にあたっては、日常的には自動車交通との関係から設置が困難であるため、本研究ではイベント時(2019年10月31日実施の魚津中央通り商店街ハロウィン祭: 商店街組合による道路占用許可申請)に合わせて試行的展開を実施した。

### 3.3 商業・建築群空間: 地域が手掛ける空き店舗のリノベーションに係る建物用途や計画検討

魚津中央通り商店街において、空き家になって約15年経過している物件を地域が抑え、改修を行うこととなった。ここに、大学が協働で関わりセルフビルドで改修し、まちおこしの拠点を目指したリノベーションを実施することになり、これに係る建物用途や計画検討を行った。

## 4 調査研究(企画・実施を含む。)の成果

### 4.1 道路空間: パークレットのデザイン・制作

統合案を踏まえて、パークレット制作に要する材料発注を行い、実制作を行った。なお、制作にあたっては、パークレットを構成する床部、壁部、イスなどのファニチャーを空間に応じて可変的に配置可能となることに配慮した(写真1)。



写真1 パークレット制作過程の様子

#### 4.2 イベント・エリアマネジメント: パークレットの試行的展開を通じた検証

イベント当日において、パークレットの実空間への展開を試みた(写真2)。パークレットの試行的展開を通じて、地域市民及び来訪者の利活用の実態やアクティビティを検証するために、ビデオカメラを用いた調査を行った。

ビデオカメラ調査では、イベント開始時間の19時から20時まで動画撮影を行った。なお、イベントのピーク時間は19時から19時半までであった。撮影した動画をもとに、5分間隔で静止画を抽出し、大人、子供それぞれの滞留人口、さらにパークレットの空間におけるアクティビティ調査(座っている・立っている・通行・談笑・イベント来訪・携帯を操作・写真を撮る)を行い、パークレットの利活用を分析した。

まず、パークレットにおける大人・子供の滞留人口の構成比をみると、大人が約6割(61%)、子供が約4割(39%)であることが分かる(図3)。次に、5分間隔でのパークレットにおける滞留時間の変化をみると、イベントピーク時である19時～19時半においては10～15名程度の子供、これに伴う大人の滞留人口が確認できる。とりわけ、イベントピーク時を過ぎた19時35分から20時10分という約30分の間においても、24名の滞留人口が確認できる(図4)。

5分間隔でのパークレットにおける滞留人口のアクティビティの内訳をみると、イベントピーク時である19時～19時半においては、イベント来訪及びこれに伴う写真撮影が多いことが分かる。また、イベントピーク時を過ぎた19時35分から20時10分という約30分の間においては、談笑、立っている、写真撮影、携帯操作などのアクティビティが24件(人)確認できる(図5・6)。



写真 2 魚津中央通り商店街ハロウィン祭でのパークレットの試行的展開の様子

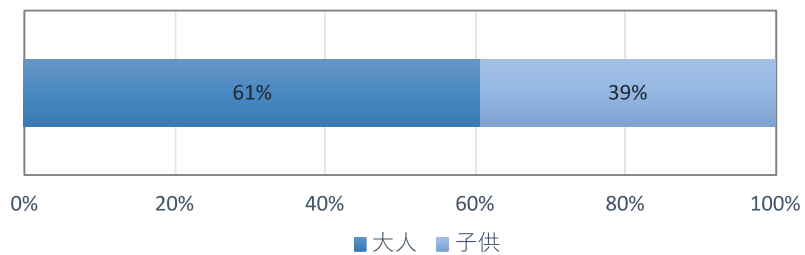


図 3 パークレットにおける大人・子供別の滞留人口の構成比

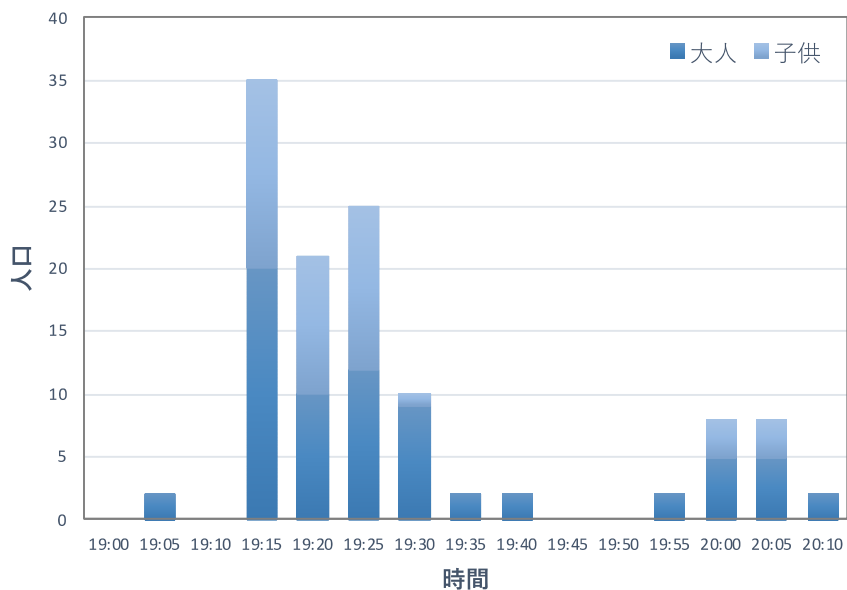


図 4 5 分間隔でのパークレットにおける滞留人口の変化

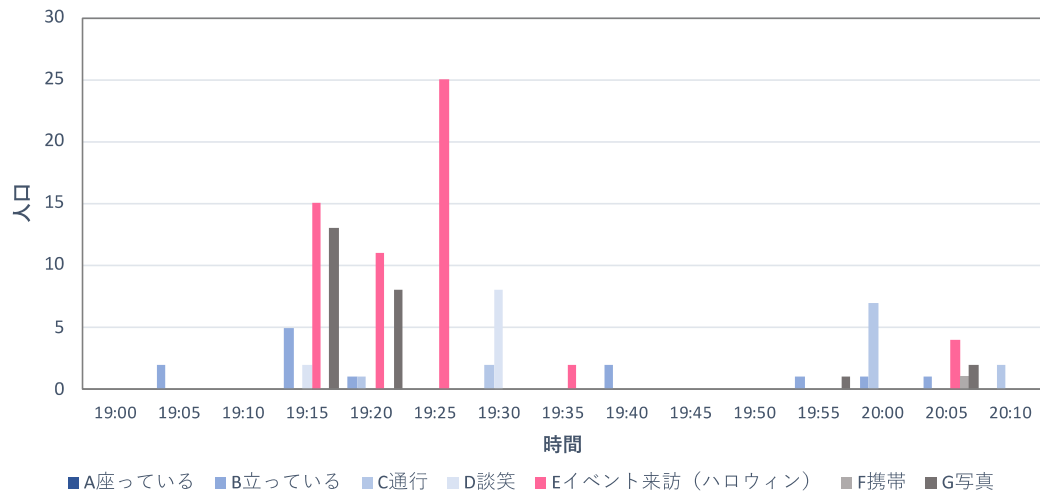


図5 5分間隔でのパークレットにおける滞留人口のアクティビティ

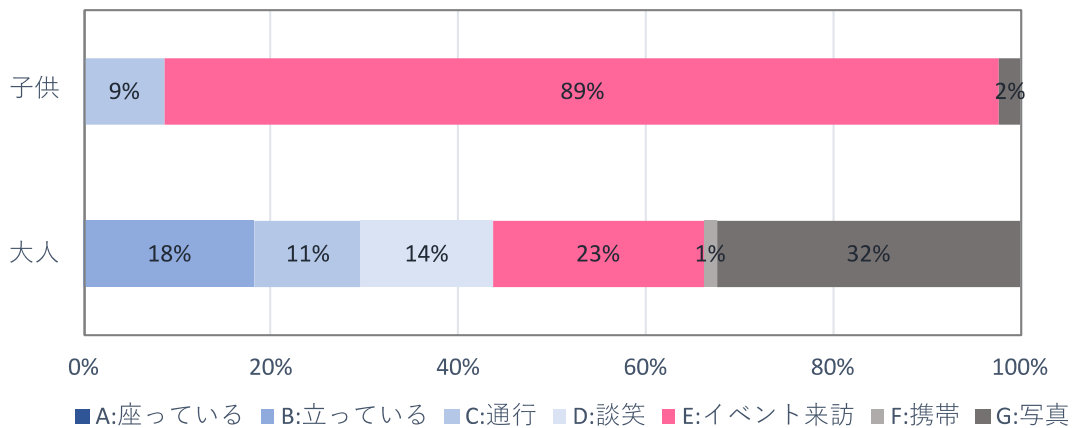


図6 パークレットにおける大人・子供別のアクティビティの構成比

#### 4.3 商業・建築群空間:地域が手掛ける空き店舗のリノベーションに係る建物用途や計画検討

リノベーションを実施するにあたり、主にフリースペースとして供用予定の2Fの内壁塗装や家具制作をはじめとする計画検討を行った。リノベーションを主導する地域プレイヤーを交えた検討案の発表会を行い、観光客向けゲストハウス、学生向けレンタルスペース、まちの図書館、バーカウンターなどの計画案をベースに議論が交わされた。



写真3 空き店舗のリノベーションに係る建物用途や計画検討の様子

## 5 調査研究(企画・実施を含む。)に基づく提言

本研究では、魚津中央通り商店街を対象に「道路空間」ではパークレットのデザイン・制作、そして「イベント・エリアマネジメント」ではパークレットの試行的展開を手掛かりに商店街空間の活性化を考究し、パークレットの活用可能性について検証した。本研究におけるパークレットの試行的展開は、イベントとの連動による試みであり、イベントピーク時間はもとより、ピーク時間以外にも日常行動に関する利活用やアクティビティの実態が確認でき、今後の展開にも有用であることが示唆できる。一方で、今後の課題として、パークレットの展開にあたっては、滞留人口や時間との関係についての分析を深度化するために、非日常時については昼間時や飲食を伴うイベント、日常展開なども継続的に検証することが求められる。

また、「商業・建築群空間」では、地域が手掛ける空き店舗のリノベーションに係る建物用途や計画検討に関わることで、空き店舗の利活用に向けたビジョンやコンセプト策定に向けて有用な議論の機会を生み出すことができたと振り返る。一方で取り組み自体が初動機であることから、リノベーションに係る実測、設計、施工といった一連のプロセスに継続的に関わっていくことも求められる。

こうした、地域における小さな実践は、地域計画に通ずる有用な手掛かりになり得ると考える。本研究での課題解決に関する取り組みを通じて、商店街を基軸とした取り組みが魚津の都市づくりやその仕組みづくりの基盤形成及び提言につながることを期待したい。

## 6 課題解決策の自己評価

本研究に関する取り組みは、平成 30 年度における富山大学都市デザイン学部都市・交通デザイン学科の開設とともにスタートし、2 年が経過しようとしている。本年度の研究実践では、昨年度の検討案をベースに実空間での展開として繋げることができた。また、地域との良好な関係を継続して構築できていることが、本調査研究を通じた最も大きな成果であるとも言える。引き続き研究実践に取り組み、更に意義ある取り組みとして昇華していきたい。